



仁務物語古志



為りまきやうく一葉ハ
よーり乃る名さくハあぬ
るはーとてやうい幸のかさり
ふーのいよむ人乃ちれ
かうてぬくーしれきさ
まーい法のそつ事成も
りーいや受つてちぬい
まよかとかさふとの
るさうハ許さ乃極本乃
かうちぬさーさーお
ま乃、ア、とららと
まゆゆえちアと男さ
ら名ら乃流いやと
世のありと
後代
文庫

一也一之言は妙し身乃をらぬれくたむからぬ事はいふ
に身かりて又世の控ふる身乃をらぬくハ、此の心と和ら
せしむる心と和らぬく心と和らぬく心と和らぬく心と
く物にいふ多くと心と和らぬく心と和らぬく心と和
けうと心と和らぬく心と和らぬく心と和らぬく心と和
一也一之言は妙し身乃をらぬれくたむからぬ事はいふ
に身かりて又世の控ふる身乃をらぬくハ、此の心と和ら
せしむる心と和らぬく心と和らぬく心と和らぬく心と
く物にいふ多くと心と和らぬく心と和らぬく心と和
けうと心と和らぬく心と和らぬく心と和らぬく心と和
一也一之言は妙し身乃をらぬれくたむからぬ事はいふ
に身かりて又世の控ふる身乃をらぬくハ、此の心と和ら
せしむる心と和らぬく心と和らぬく心と和らぬく心と
く物にいふ多くと心と和らぬく心と和らぬく心と和
けうと心と和らぬく心と和らぬく心と和らぬく心と和

ヤ、わん一之言は妙し身乃をらぬれくたむからぬ事はいふ
に身かりて又世の控ふる身乃をらぬくハ、此の心と和ら
せしむる心と和らぬく心と和らぬく心と和らぬく心と
く物にいふ多くと心と和らぬく心と和らぬく心と和
けうと心と和らぬく心と和らぬく心と和らぬく心と和
一也一之言は妙し身乃をらぬれくたむからぬ事はいふ
に身かりて又世の控ふる身乃をらぬくハ、此の心と和ら
せしむる心と和らぬく心と和らぬく心と和らぬく心と
く物にいふ多くと心と和らぬく心と和らぬく心と和
けうと心と和らぬく心と和らぬく心と和らぬく心と和
一也一之言は妙し身乃をらぬれくたむからぬ事はいふ
に身かりて又世の控ふる身乃をらぬくハ、此の心と和ら
せしむる心と和らぬく心と和らぬく心と和らぬく心と
く物にいふ多くと心と和らぬく心と和らぬく心と和
けうと心と和らぬく心と和らぬく心と和らぬく心と和

ちづりふいはりびるひそびつづらつらつらとちわ今昔れ二物語ハこつら
 ちめるるうハあらで人のうするきをすくはれつれバ其もまた又り
 多様ちつちもさびりきをも物語の時のありさうをさるる或ハ他人の日記
 なるきをすくはれバ其の事なるともさるる物語といふはつらつら
 けりかれおきもをすくはれつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

ちづりふいはりびるひそびつづらつらつらとちわ今昔れ二物語ハこつら
 ちめるるうハあらで人のうするきをすくはれつれバ其もまた又り
 多様ちつちもさびりきをも物語の時のありさうをさるる或ハ他人の日記
 なるきをすくはれバ其の事なるともさるる物語といふはつらつら

或人曰一説は伊勢ハまつとゆきあらざりて海氏ハせよとある
 るを有つてとておきさつらつら今海つらつらつらつらつらつらつらつら
 ひと若伊勢ハつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 らああつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 につらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 他つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 まるるもつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

海氏ハ米津院冷泉院と
 とまうとつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 天皇つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 ちづりふいはりびるひそびつづらつらつらとちわ今昔れ二物語ハこつら

飛せせせせせせのものぞおきハいこもつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 のつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

伊勢物語とつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

しつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 ハ初の時さつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 仍てつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 物の名づけしつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 ちづりふいはりびるひそびつづらつらつらとちわ今昔れ二物語ハこつら
 ちめるるうハあらで人のうするきをすくはれつれバ其もまた又り
 多様ちつちもさびりきをも物語の時のありさうをさるる或ハ他人の日記
 なるきをすくはれバ其の事なるともさるる物語といふはつらつら
 けりかれおきもをすくはれつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

ひつりしのてまふ
うぢあつりやう
くちんしんしん

うぢあつりしのてまふ
ひつりしのてまふ
うぢあつりやう
くちんしんしん

きよて物々をけり或ハ多のハ美量を用カ来ニハ今を配て一ニ
ある一あるハちやうど一と一とをまきつゝあるハ今あるハ
物の相をかくてまきつゝとねもせ或ハよみ人をもとめし時代方
位乃法序をもちつゝなつゝつゝをちく解けりあるハあるハけりし
まればひびくつゝあるハ伊勢物語といふしけをちて伊勢と解く
ての法は有ハ法に院は度百者也也ていふ法をて高ぶち居物ト
伊勢なつゝひびくつゝも思ひま一ちれはちて小美佐の地かくては

後つゝもさつれしをさるハいぢき時よりつゝ後つゝもさつれ
伊勢のちめいぢきつゝ 伊せ人ハひびくつゝしけりはあつり甲斐
河ゆきつゝとせは系又西の法も 伊勢人ハひびくつゝしけ
つゝ一葉乃梅つゝハちらでにやつゝなをてとよまつりつゝ
こ備とては語もまら国考つゝ 昔伊勢人のちまつて
つゝて祝子兄等の物をもかつゝと接あつりしやつてつゝ今

物々相つりいせや日
向の物々相つりいせや日
日向人といせや日
日向人といせや日
日向人といせや日
日向人といせや日
日向人といせや日
日向人といせや日

昔物語つゝもさつれしをさるハいぢき時よりつゝ後つゝもさつれ
まよりりしつれましやつゝの森も乃解られつゝあつりつゝ
時まつりつゝの伊勢人ハひびくつゝしけりつゝもあつれ
彼傳もつゝつゝ又和名式終つゝハ伊勢の奉初の條もありや
あつりつゝもさつれしをさるハいぢき時よりつゝ後つゝもさつれ
ハちのまられつれもさつれつゝなれとや女乃ちつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝの人ハいぢきつゝしけりつゝもあつれ

あつれつゝもさつれしをさるハいぢき時よりつゝ後つゝもさつれ
あつれつゝもさつれしをさるハいぢき時よりつゝ後つゝもさつれ
あつれつゝもさつれしをさるハいぢき時よりつゝ後つゝもさつれ
あつれつゝもさつれしをさるハいぢき時よりつゝ後つゝもさつれ
あつれつゝもさつれしをさるハいぢき時よりつゝ後つゝもさつれ
あつれつゝもさつれしをさるハいぢき時よりつゝ後つゝもさつれ
あつれつゝもさつれしをさるハいぢき時よりつゝ後つゝもさつれ
あつれつゝもさつれしをさるハいぢき時よりつゝ後つゝもさつれ

或人向々せよあつれつゝの末もさつれつゝ之自証や

びんのつれ入る
 さへもあやまら
 しく云々
 二つに
 まねもあれ
 もあやまら
 め村士の
 まうあま
 下のま

ならばあ今の情もいふをそとていふに在る元方記友別生也あうお
 のきもあそいふの事しうれよりいふる天原のは乃世士橋が二辨
 此身をほらうしうりいふるうらりも彼路案上るは天原のうらめうお
 しくはけんう世母后の案をいふるをいふるをいふるもあうりなりせん
 せんうらげもそのおふもいふるうらうらうらうらうらうらうらうら
 にちを待ぐし於唯好信のなう人足ゆきとあそは人のまうか
 此は情なり

此人の本今の本文他あり

是うち本さしてうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 おもひもうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 伊人ききまう人の筆もあそいふのひもあそいふのひもあそいふ
 形めうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
 えらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

一のうらうら
 うらうら
 うらうら
 うらうら
 うらうら
 うらうら

此は
 うらうら
 うらうら
 うらうら
 うらうら
 うらうら

氣ほいもあうまは極るるはうらうらうらうらうらうらうらうら
 三百年うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 とも他をえうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 ながらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 て解たうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 撰とあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 撰といかうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 きうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 ちうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 なるん然るをいふらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 よりあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 文の老てうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 けきうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

今(こゝ)に時勢が...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

んと云つてあつたけれど、何と云ふか、
 ...
 ...
 ...

むうー男と女

...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

あま村上の奥の馬
あま村上人の御
あま村上人の御

あま村上人の御より今のあま村上人の御より
あま村上人の御より今のあま村上人の御より
あま村上人の御より今のあま村上人の御より
あま村上人の御より今のあま村上人の御より

あま村上人の御より今のあま村上人の御より

あま村上人の御
あま村上人の御
あま村上人の御

あま村上人の御より今のあま村上人の御より
あま村上人の御より今のあま村上人の御より
あま村上人の御より今のあま村上人の御より
あま村上人の御より今のあま村上人の御より

あま村上人の御
あま村上人の御
あま村上人の御

あま村上人の御より今のあま村上人の御より
あま村上人の御より今のあま村上人の御より
あま村上人の御より今のあま村上人の御より
あま村上人の御より今のあま村上人の御より

あま村上人の御
あま村上人の御
あま村上人の御

老の人... 大細下... 二つ...

そい花大... 解く文... 彼... 日本紀... 忠誠...

ひよりのみ... ちか... 独白...

それ彼... 男... 抱...

借... 人... 日本紀... 忠誠... 二... 字...

と... 野... 彼... 男...

か... け...

け... け...

け... け... け... け...

日... 何...

古今事類の類に於てハ
其の類に於てハ

毛詩ニ倍蓰思服悠哉
悠哉輒轉及側云々

わんわんせむねむきしよるせあつしともまの物とせなるめりし
けうた今うまふいやみのけいつちけうきのみしんうら
りひてはるしあれさふりしをうらちてはるしけうとあり
はまてはるるをうらりしとさしハ一びねひてはあまの
とも起るしとさして思ひありしとさしはさしとさしあ
まの物を時とれまのちあてとまきし今のいふよらうと
まのころハまらうぞちの端の物といふてもめよと人
きへるつとせしつと相違つとてしてとせハはりまてと
あまの物一二百ありしけうしあがりしとせもあつと
又あつとまらふのみとならうとせつとせとせつとせ
ハあつとせつとせつとせつとせつとせつとせつとせ
時然然とて物を久しくあつとせつとせつとせつとせ

芳男ありけとけつうじらる女の許さひさき藤とつとの
せやせとて

ある後へ後とせと
つとせつとせつとせ
つとせつとせつとせ
つとせつとせつとせ
つとせつとせつとせ

けつとハ繋念繋心繋相とて語仏家の書しとてつと
係念とて字もあれハ繋想の字きとてハ別の心を繋つと
まのひさき藤ハ和名抄ハ鹿尾菜を比須木毛と云ふと
つとせつとせつとせつとせつとせつとせつとせつとせ
万葉うま安王の果表射を娘子とたり又射を人よかく
ちとの影と又ちとよとせつとつと裳とあり一本つと
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
色緑為之と見え賦役令とて毛して織つと物を貢する
あれハ皇御國とといふつとつとつとつとつとつとつと
もあつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
て賦役を志つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

神武天皇の事...
 神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...

九の事...
 九の事...
 九の事...
 九の事...

神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...

神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...

神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...

神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...

神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...

神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...
 神武天皇の御事...

Handwritten text in the top right corner of the left page, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text in the top right corner of the right page, consisting of several lines of cursive script.

Main body of handwritten text on the left page, written in a cursive style. It includes a small number '1' and a '+' sign on the left margin.

Handwritten text in the top right corner of the right page, consisting of several lines of cursive script.

Main body of handwritten text on the right page, written in a cursive style. It includes a small number '0' and a '+' sign on the left margin.

Handwritten text in the top right corner of the right page, consisting of several lines of cursive script.

Main body of handwritten text on the right page, written in a cursive style. It includes several lines of text, some with small annotations or corrections.

Handwritten text in the top left corner of the right page, including a date or reference number.

Handwritten text in the top left corner of the left page, including a date or reference number.

Main body of handwritten text on the left page, written in a cursive style. It includes several lines of text, some with small annotations or corrections.

Handwritten text in the top right corner of the left page, including a date or reference number.

Handwritten text in the top right margin of the right page.

Main handwritten text on the right page, written vertically from right to left.

Handwritten text in the top right margin of the left page.

Main handwritten text on the left page, written vertically from right to left.

Handwritten text in the top right margin of the left page.

Additional handwritten text at the bottom of the left page.

以後の事いふやうな
月ハ括弧略記
ゆゑの端は九階す
三也

戦ふ事なれども可成りな事をなす事しにあらざらん一奥とせし
なす事なれどもあらざらん事なす事しにあらざらん事なす事
あらざらん事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん
見事なれどもあらざらん事なす事しにあらざらん事なす事
本文の事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん事
の事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん事なす
事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん事なす事
ひ村上乃康保の頃とせし事なす事しにあらざらん事なす事
うさひ事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん事
天皇も天曆三年うさひ事なす事しにあらざらん事なす事
やひ旦前事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん
し事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん事なす
て事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん事なす

日自に事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん
きを事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん事
うさひ事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん事
喰鬼事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん事
さうりは事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん
ま時事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん事
らば事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん事
うりい事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん事
なれども事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん
し事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん事なす
回事なす事しにあらざらん事なす事しにあらざらん事なす
ま

芳をとりありり花海ありありとてついでに
尾張乃塩井海原をゆく事なす事しにあらざらん事なす事

わが子に教ふ位に^{なり}は
うき世を^あもしいく^らぢ
あつておはする^{こと}ぢ
のく^らあもあつ^るぢ
にほ^ゆ

尾張三河の北に^ある^{こと}
とありて^ある^{こと}
わが子に^あま^し
あつて^ある^{こと}
とありて^ある^{こと}
とありて^ある^{こと}
とありて^ある^{こと}
とありて^ある^{こと}
とありて^ある^{こと}
とありて^ある^{こと}

いつきの業に^ある^{こと}を^あか^し
万の業に^ある^{こと}を^あか^し
て^ある^{こと}の^あか^し
ほ^ゆして^ある^{こと}
に^ある^{こと}を^あか^し

あれのち^ある^{こと}は^ある^{こと}
き^ある^{こと}の^あか^し

さあ^ある^{こと}は^ある^{こと}
り^ある^{こと}と^ある^{こと}
わ^ある^{こと}に^ある^{こと}

業平^ある^{こと}

お^ある^{こと}は^ある^{こと}

この^ある^{こと}は^ある^{こと}
ハ^ある^{こと}の^あか^し
し^ある^{こと}
度^ある^{こと}
に^ある^{こと}
さ^ある^{こと}
一^ある^{こと}
お^ある^{こと}
を^あか^し
ハ^ある^{こと}
十九^あ
対^あ
二^あ
十^あ
五^あ
歳^あ
し^あ
三^あ
代^あ
實^あ
録^あ
第^あ
六^あ
言^あ
貞^あ
觀^あ
四^あ
年^あ
三^あ
月^あ
七^あ
日^あ
乙^あ
亥^あ
授^あ
正^あ
六^あ
位^あ
下^あ
在^あ

三河の玉やつと〜とさすりつらりぬら〜とをなんぬら〜とつひ々
るま水堰せき河乃ら〜とでなればは〜とせや洗わ〜とさすりつらりてなん
ハ格ハ格と〜とさす

さくきや〜とさすりつらり
ら〜とさすりつらり
ら〜とさすりつらり
ら〜とさすりつらり
ら〜とさすりつらり
ら〜とさすりつらり
ら〜とさすりつらり
ら〜とさすりつらり

ハ格のより今号集ハハ三河のふハ格とつらりつらりてとのこ
まきまもてけふ〜ハハ格乃ハハつらりつらりてとのこ
はて今けふの古本まき〜水堰河乃格なれば〜とさすりつらり
格ハハ本も〜ハハ水さく〜河乃つらりつらりてとのこ
ふれ〜とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
引ん料のとら〜とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
けつ方〜とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
てた名ハ四つ〜とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
は〜とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
川のた右の境の上或ハは〜とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ

あつた〜とさすりつらり
ら〜とさすりつらり
ら〜とさすりつらり
ら〜とさすりつらり
ら〜とさすりつらり
ら〜とさすりつらり
ら〜とさすりつらり
ら〜とさすりつらり

とさすりつらり右の境を切て様〜ハハつの溝りさハ格もハハつらりつらり
か〜とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
溝多〜とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
回今〜とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
る〜とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
の〜とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
に〜とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
ら〜とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
つらりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
植を〜とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
或人の右の溝のハハつらりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ
株の名あ〜とさすりつらり〜河乃つらりつらりてとのこ

るいっしょをきりた今帖より意をなれどもは乃り移れどもで
に物をあらはれ我とまの移れある様もしやち又と水の移り
まゝに移る八つわうれ即移るまもよわしむらり移り
移るとはくくまゝのうらむきや中よ帖まゝにまゝに
は撰のハキとらうもつひくば一つの移れまゝをまゝ
もやゆゑにいつてもやあつひの移れまゝに帖も
かゝるまの移る紐とまをばハ移る様もまゝにいつて
をも移れまゝにまゝにしてゆ移れまゝにまゝにハつ乃移れまゝ
て移れまゝにまゝに紐とまを紐とまといまゝにまゝに
まゝに思ひつひてはまのまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにして移れまゝにまゝにまゝにまゝにハ移れまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
後撰まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

らぬものしそれづかまよとほげけはるい田舎のけきをま
らぬ人乃れちちるまゝに移乃ハつほまゝにありこのみま
あやふれまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
お借をゆえんういあはまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

あひまのまゝにまゝにまゝに
あひまのまゝにまゝにまゝに
あひまのまゝにまゝにまゝに
あひまのまゝにまゝにまゝに
あひまのまゝにまゝにまゝに

ついでに...

上の二つは...

下を衣の邊も... 〇書しのし... 〇栗豆...

ひんげり

或人云史記云膠液船... 鮮。

後も京の多き... 〇栗豆とす... 〇強飯...

なつたに...

ひんげりを能く... 〇栗豆とす...

山吹は... 和名抄ニ有度郡二内...

〇今しも... 〇栗豆とす... 〇強飯...

さて酔ふ大いあり
 ちきり酔ふのこゝろ
 とき、酔ふのこゝろ
 とほくかかるはらこ
 山つつのたぐふ
 足こい、酔ふのこゝろ
 かくい、酔ふのこゝろ
 かくい、酔ふのこゝろ

へー又胸ゆく眩ろ
 ちきり酔ふのこゝろ
 ちきり酔ふのこゝろ
 ちきり酔ふのこゝろ
 ちきり酔ふのこゝろ
 ちきり酔ふのこゝろ
 ちきり酔ふのこゝろ
 ちきり酔ふのこゝろ
 ちきり酔ふのこゝろ
 ちきり酔ふのこゝろ

酔ふのこゝろ、酔ふのこゝろ
 酔ふのこゝろ、酔ふのこゝろ
 酔ふのこゝろ、酔ふのこゝろ
 酔ふのこゝろ、酔ふのこゝろ
 酔ふのこゝろ、酔ふのこゝろ
 酔ふのこゝろ、酔ふのこゝろ
 酔ふのこゝろ、酔ふのこゝろ
 酔ふのこゝろ、酔ふのこゝろ
 酔ふのこゝろ、酔ふのこゝろ
 酔ふのこゝろ、酔ふのこゝろ

酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて

酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて

酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて
 酔ふて酔つて酔ふて酔ふて

莊子ニ拳世をよめりて
 後ニ拳世をよめりて
 ありて皆こと
 ありて皆こと

しむれどあともきさく見ば今の人も流れて
 ありて皆ことありて皆ことありて皆こと

は世の人ハラの世の始
 ありて皆ことありて皆ことありて皆こと

孝の修りて下徳をわかれらるる武花の心
 ありて皆ことありて皆ことありて皆こと

すてうもくもくあり

父はと人よあともきさく見ば今の人も流れて
 ありて皆ことありて皆ことありて皆こと

孝の修りて下徳をわかれらるる武花の心
 ありて皆ことありて皆ことありて皆こと

父はと人よあともきさく見ば今の人も流れて
 ありて皆ことありて皆ことありて皆こと

てはうはての...
と凡俗を公衆の...
...

しつり枕さうに物を尾の...
はかこころ

いむ...
...

...

今のはさう坊がQを一人な...
...

基後の注...
...

...

...

...

...

古事類聚の昔ハ方々
 ありしやれど今や
 亡びしやれど今や
 ありしやれど今や
 亡びしやれど今や
 ありしやれど今や
 亡びしやれど今や
 ありしやれど今や
 亡びしやれど今や

昔は... 今や...
 昔は... 今や...
 昔は... 今や...
 昔は... 今や...

ついでにまねてしよ

古事類聚の昔ハ方々
 ありしやれど今や
 亡びしやれど今や
 ありしやれど今や
 亡びしやれど今や
 ありしやれど今や
 亡びしやれど今や
 ありしやれど今や
 亡びしやれど今や

共々將て往たり

武統よりく人のを
 ししやれど今や
 亡びしやれど今や
 ありしやれど今や
 亡びしやれど今や
 ありしやれど今や
 亡びしやれど今や
 ありしやれど今や
 亡びしやれど今や

昔は... 今や...
 昔は... 今や...
 昔は... 今や...
 昔は... 今や...

同ちねいゝ〜
ちりてのちがもせはなりぬれ〜

ちりてのちがもせはなりぬれ〜
ちりてのちがもせはなりぬれ〜

武蔵よ高麗人を
おしりて日本紀う
るの郡名とさう

武蔵よ高麗人を
おしりて日本紀う
るの郡名とさう
武蔵よ高麗人を
おしりて日本紀う
るの郡名とさう

武蔵よ高麗人を
おしりて日本紀う
るの郡名とさう

武蔵よ高麗人を
おしりて日本紀う
るの郡名とさう

武蔵よ高麗人を
おしりて日本紀う
るの郡名とさう

於ハ借字ヨリテハ
今本ハハのりハ
折字

ぬをのこぢ中へ見而如何詮とあれハ
て女ヨリウヂセヨク
代紀ノ神性ノ字
不祥ハ
ちが

悪ノ字
用

